

令和6年7月30日(火)

令和6年度 第1回 岡谷市工業活性化会議

会 議 録

【出席者】

委員 (13名)

垣内 健児委員、笠原 洋平委員、木下 敏彦委員、榊 和彦委員、林 広一郎委員、林 将昭委員、三ツ井 伸二委員、三村 智久委員、宮澤 俊基委員、桃井 千明委員、矢島 洋子委員、山岸 光委員、弓削 俊宏委員

(欠席者：長田 さゆり委員、林 直樹委員、山田 敏幸委員…計3名)

岡谷商工会議所

赤沼 喜市専務理事

今井 基雄相談所長兼工業・経営支援課長

岡谷市

早出 一真市長

木下 稔産業振興部長

真田 健工業振興課長、

吉田 晋主幹

小坂 秀文主幹

久保田 宏陽主幹

鈴木 治樹主査

水澤 優馬主任

伊東 龍之介主事

石黒 周司専門官

令和6年度 第1回 岡谷市工業活性化会議 議事録

会 議 名	令和6年度 第1回 岡谷市工業活性化会議
開 催 年 月 日	令和6年7月30日（火） 15時30分～
開 催 場 所	テクノプラザおかや 人材育成研修室
会議概要	
<u>1 開会</u>	
<u>2 あいさつ</u>	
<u>3 会長及び副会長選任</u>	
会長に岡谷市金属工業連合会会長 マルヤス機械株式会社 林広一郎様、副会長に岡谷商工会議所副会頭 株式会社諏訪機械製作所 木下敏彦様を選任	
<u>4 協議事項</u>	
(1) 工業活性化計画の進行管理及び令和6年度事業について	
(2) テクノプラザおかやの利用状況について	
(委員)	
<ul style="list-style-type: none">・円安、原材料高の影響もあり、お客様が設備投資に踏み切れていない。・会社の人材育成等検討を進めている。・人の採用に苦労している。4年生の大学卒の採用も検討しているが難しい。一度都会に出るとなかなか戻ってきてくれない。30代のUターン者をターゲットにするのが良いか。現在、ハローワークを活用している。	
(委員)	
<ul style="list-style-type: none">・今後は、生産性をいかに上げるかが大事になってくる。社員の働きも重要だが、事業者にとっては、経営資源の投下がポイントになってくる。・企業の流出より、廃業のほうが多いのではないか。企業を維持していく点では、廃業を何とか食い止め、M&A等により諏訪圏域内にこだわらずマッチングして残っていただく。なくなることでこの地域の技術がなくなってしまう、工業力を落とすという部分にも考えを向けていく必要があるのではないか。検討していただければ。	

(委員)

- ・内容について詳しい意見はない。人手不足の問題は感じる。東京に出てしまうと戻ってこない。それが一番大きな要因。若い時に東京に出て、Uターンで戻ってくるケースがある。工業活性化という部分がある一方で、まちづくり全体でとらえ、「住みやすい街」という部分が流出を防ぐことにつながる。市全体で考えていく必要があるのではないか。

(委員)

- ・廃業が全国各地で問題になっている。新規創業も大切であるが、廃業率を小さくしていく必要もある。
- ・シェアオフィスの中に工業系の企業が何社あるのか、法人化している企業が何社あるのか教えてほしい。
→製造関係の企業（開発試作）が1社、法人化されている企業が7社ある。
- ・今後も積極的に支援していただければ、できれば工業系を支援したほうが雇用にもつながる。

(委員)

- ・人材不足が一番問題。募集しても人が集まらない状況であり、仕事は結構いただいているが、消化できない。子供2人が東京に出ている。若い人が魅力を感じるようなまちづくりを進めていただければ。

(委員)

- ・企業の流出防止、企業誘致の面で協力したい。市外から有力な企業を呼んでくるという形になるが、岡谷市は用途地域が本当に限られている。移転をしたい声もあるが、土地を確保することが大変な状況にある。開発の事業も行っているので、準工業の土地を提供していただける声がある場合には、まずは工場地域に、その次に住宅用地にということを考えてながら誘致に協力していきたい。

(委員)

- ・人材不足という声が多く、非常に深刻な問題。特に技術系の人間が取れないというのが共通の認識。どうするかということ考えたときに、設備の拡充は切り離せない問題。生産性の向上をするときに設備は不可欠。
- ・市の立場からすると、国も補正等で手を打ってくる中で、国、県の予算をどれだけ獲得できるかといった部分があるかと思う。その予算をどうやってとってくるのか一緒に考えていきたい。

- ・ミクロな点では、技術支援も行っている。見学も受け入れているため、お気軽に相談いただければ。A I、I O T 関連は松本で重点的に行っている。

(委員)

- ・企業研究会に参加させていただいた。多くの企業の方に企業研究会に参加いただいて、地元企業を知る機会をいただけた。インターンシップでも地元企業にお願いをしているところ。できる限り地元企業に興味を持ってもらえるような進路指導をしていきたい。
- ・どの学校も少子化の影響を受けて入学してくる子どもが少なくなっている状況。高校再編の対象校にもなっているところであり、工業の学びをいかに継続していくかというところに注力していきたい状況。

(委員)

- ・令和5年度に岡谷市で生まれた子供が210人。とんでもなく少ない数字。人材の前に日本がどうにかなってしまう。ものづくりフェアを取材していた際に、諏訪を取材する機会があり、諏訪地域は非常に面白いと感じた。諏訪のものづくりはマニアック。ものづくりフェアにも実際に参画させていただいて、工業は大人の社会と思っていたが、フェアに来るのはほとんど子供。次世代への継承を考えて何年も行われている。教えるという立場ではなくて、遊ぼうという感覚でやってきた。全国的に見ても大事な取り組み。岡谷にしかないものをもっと広げ、関係を持ったところから、大きな広がりができるのではないか。

(委員)

- ・表面処理工業会、21 経営者研究会に参画している。会合をきちんとやると活性化しているのではと思う。他の会合の様子は知らないが、平等に楽しい工業会になればよいと思う。

(委員)

- ・大学のある学科では受験倍率が2倍を切ってしまった。そうした中、信州大学の工学部を令和8年度から改組する予定。1学科制となる。数理情報分野が国策でも進んでいる状況である。
- ・個人的に3次元造形の関係に注目しており、国と大企業でも動きがあり、結構大きな予算が動いているよう。情報の収集をしっかりと、流れをつかんでいきたい。

(委員)

- ・人がいなくなるのに企業誘致するのか。ギャップを感じる。

- ・生産性を上げるためには投資しかない。投資ができなければ人を入れるしかない。人口が右肩上がりではなく、下がっていく時代にあってどうしていくのか。市は、いかに国から予算を獲得し、市内企業に配分していくかだと思う。

(委員)

- ・期待するのは、基本戦略の4。生活に魅力を感じて集まってくるが、高卒と移住者では期待するものが違う。有機的に岡谷市の産業の魅力がつながるかという運用は行政の手腕にかかっている。芯の通った活動を期待している。
- ・新製品開発において最近感じるのは、今元気のある企業が繰り返しチャレンジをしているということ。こうした動きがどんどん増えてくれればよいと思う。産業界への刺激として企業の活力を生み出していく。連携して仕事を進めていきたい。

5 閉 会

以上